Type2-01(2022)



2系資源に適用する 漁獲管理規則・ABC算定について

2系資源ABC算定のためのRパッケージfrasyr23の使いかた



漁業情報解析部 資源解析グループ 福井 眞 fukui_shin87@fra.go.jp

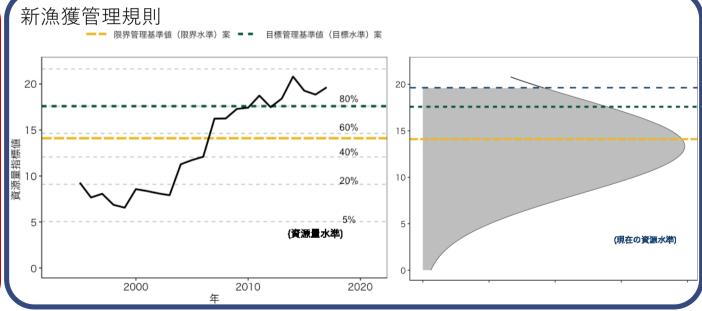
1系資源・2系資源とは

- 1系資源:対象魚種(系群)について、過去の絶対資源量が推定可能な資源
 - 十分なデータがあればVPAをつかったコホート解析が可能。
 - 年齡別漁獲尾数
 - 年齡別体重
 - 年齢別成熟率
 - 年齢別漁獲圧 etc…
 - 過去の(親魚)資源量と加入量のデータから推定された再生産関係(1A) 将来の資源 動態を予測. あるいはYPRなどの管理基準値(1B)を用いるなどにより、MSY基準 の条件を満たす漁獲を算出可能.
 - 十分なデータがなくともプロダクションモデルなどで絶対資源量を推定できる場合も(1C)
- 2系資源:十分な情報がなく、絶対資源量の推定が難しい資源
 - ・標準化CPUEなどの資源量指標値の時系列トレンド、過去のデータと比較して現状 の資源量がどの水準か、直近数年分の漁獲量データからABC案を算出

2系資源における資源水準の決め方

- 2系の旧漁獲管理規則においては、資源量指標値(CPUE)の最小値と最大値を3等分して下から低位・中位・高位とし、いずれかを資源水準とした。
- 新たな2系の漁獲管理規則では,過去のCPUEからの累積正規分布から最新時点のCPUEに相当する,次式で与えられる値 D_t を水準とする. $D_t = \int_{-\infty}^{CPUE_t} \phi \left[\frac{x E(CPUE)}{SD(CPUE)} \right] dx$



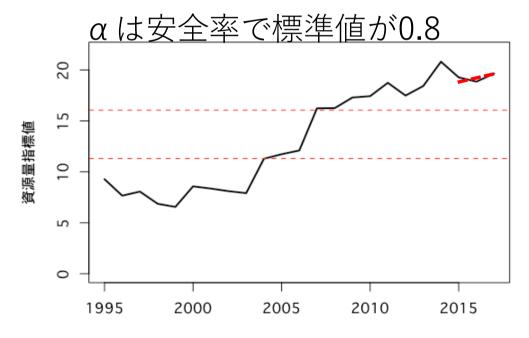


旧ルール:資源水準と直近のトレンドからABCを算出

• 資源量指標値の直近(3)年平均Iと傾きb、係数kによって決まる γ_1 、 資源水準で決まる δ_1 、直近(3)年平均漁獲量 C_t によってABClimitが 定まる ABC $limit = \delta_1 \times Ct \times \gamma_1 \ (\gamma_1 = (1 + k(b/I))$

 $ABCtarget = ABClimit \times \alpha$

資源水準が高位、中位、低位の δ_1 は1.0, 1.0, 0.8で、k=1



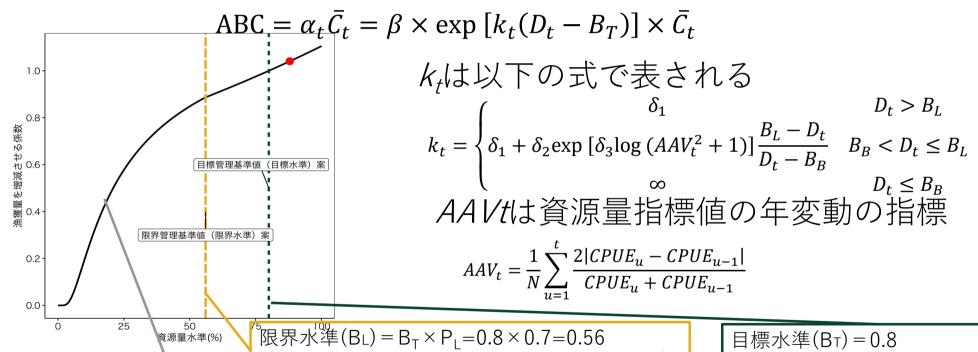
直近年の資源量指標値トレンドに 応じた順応的管理

 $\downarrow \downarrow$

資源変動は考慮されにくい

新ルール:資源水準Dtとこれまでの変動からABCを算出

• 現在の資源水準 D_t と係数 k_t で決まる漁獲量を増減させる係数 α_t と、過去5年の漁獲量の平均値との積をABCとする β は全体を調整する係数でデフォルトは1



(BLを下回ると漁獲量の削減幅が大きくなる)

曲線の形を決めるパラメータ3つ $(\delta_1, \delta_2, \delta_3)$

 δ (0<= δ <=1)は大きい数値をとると保守的な α となる δ_3 によって資源変動を考慮

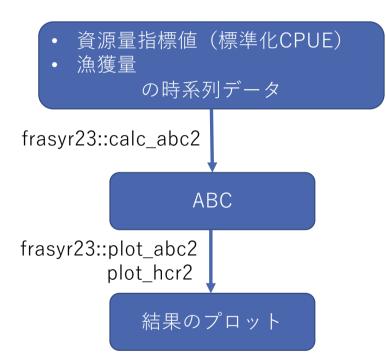
(BTを越すと漁獲量を増やせる)

2系でABCを計算するためのRパッケージfrasyr23



frasyr23に収められている主関数

- calc_abc2:2系ルールによるABCの算出
- plot_abc2:calc_abc2の戻り値から図を3つ プロット
 - 資源量指標値の時系列
 - 漁獲管理規則
 - 漁獲量の時系列とABC
- plot_hcr2: plot_abc2の2つ目、漁獲管理規則の図をプロット



calc_abc2:2系漁獲管理規則のABC算出

- 引数
 - BT,BL,BB, δ など漁獲管理規則
- 戻り値
 - "BRP", "Obs_BRP", "Current_Status", "AAV", "tune.par", "ABC", "arglist", "mean.catch", "Obs_percent", "Obs_percent_even", "D", "alpha", "beta", "D2alpha"

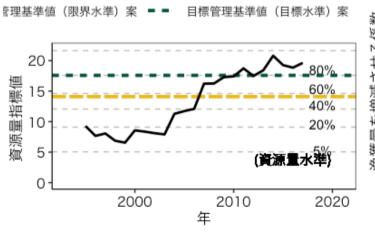
```
\mathsf{B}^{\bullet} Type2-01.R \times
              Type2exRuleBriefing.R
            Source on Save
 12
 13 # ABCを算出
     abc2_aka<-calc_abc2(ccdata = data_aka.
                BT = 0.8,
 16
                PL=0.7.
 17
                PB=0.
                tune.par = c(0.5, 0.4, 0.4),
 18
 19
                n.catch = 5,
 20
                n.cpue = 3,
 21
                beta = 1,
 22
                D2alpha = NULL
  23
 24
     names(abc2_aka)
 25
27:36
      # frasvr23のインストールとライブラリーの読み込み 🤋
                 Background lobs
R 4.1.2 ~/FishStockManageTraining/ 
             m.cucch = J,
            n.cpue = 3,
            beta = 1.
            D2alpha = NULL)
Taraet CPUE value and Level: 17.59 and 0.8
Limit CPUE value and Level: 14.11 and 0.56
Histrical low CPUE value and Level: 6.556 and 0.089 (1999)
Last year's CPUE value and Level: 19.641 and 0.894
AAV of CPUE: 0.093
alpha: 1.048
Average catch: 5015.916
ABC in 2019: 5257.496
```

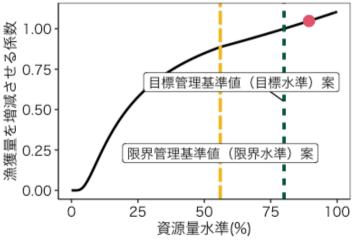
plot_abc2:calc_abc2の戻り値から図をplot

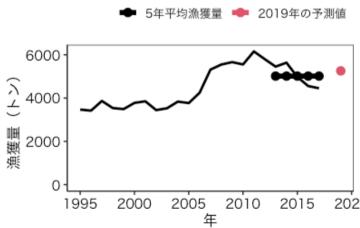
- 引数
 - res:calc abc2の戻り値
 - fishseason: 0)年·1)漁期年
 - ABC:0)予測値・1)算定漁獲量・2)ABC
 - proposal:T) 管理基準値(水準)案・F) 管理基準値(水準)
 - etc ···
- 戻り値
 - "graph.component" "graph.combined"
 - graph.component[[1]]:資源量指標値の時系列 graph.component[[2]]:漁獲管理規則

 - graph.component[[3]]:漁獲量の時系列とABC
- 図の保存
 - ggsave関数

```
Source on Save
23
   names(abc2_aka)
25
   # 結果をプロット
   graph2_aka<- plot_abc2(res = abc2_aka,</pre>
28
                          fishseason = 1,
29
                          detABC = 0,
                          proposal = F)
30
31
```





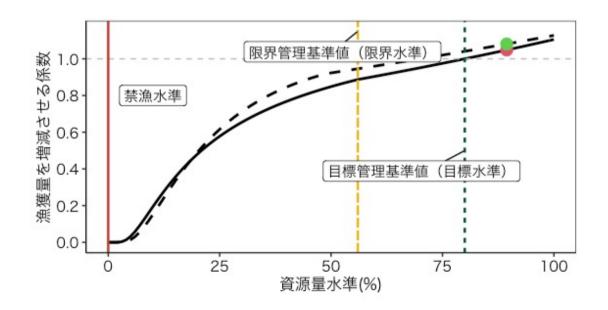


plot_hcr2:calc_abc2の戻り値から漁獲管理規則の図をプロット

• 引数

- res:calc_abc2の戻り値のリスト
- proposal: T) 案 or F)
- vline:管理基準(水準)の縦線
- vlineBan:禁漁水準の縦線
- hscale: "dense") 0.2刻み・ "middle") 0.25刻み・ "sparse") 0.5刻み
- hline:"hscale") メモリ幅の横線 "one") 縦軸=1.0の横線
- ・戻り値の保存
 - ggsave関数

```
# calc_abc2の結果オブジェクトからHCRについての図をプロット
abc2_aka_BT07<-calc_abc2(ccdata = data_aka,
BT = 0.7,
tune.par = c(0.4,0.7,1.0))
plot_hcr2(res.list = list(abc2_aka,abc2_aka_BT07),
proposal = F,vline = T,vlineBan = T,
hscale = "dense",hline = "one")
```



frasyr23を使って2系資源のABCを計算できた



- ABC算出の根拠となった漁獲管理規則のパラメータはどう決まるのか?
 - →次に漁獲管理規則パラメータ決定の根拠となるMSEとスコアを紹介

